

諸岡先生・千葉先生の送別会での挨拶

現在の宇宙の温度は絶対温度で2.7度であると言われていています。絶対温度0度は摂氏マイナス273.15度であり、これ以上低い温度は存在しないという極限の温度です。この絶対零度では、熱やエネルギーの移動が起こらないし、物質の変化もありません。変化がなければ時間の概念もなく、まるでビデオの静止画面のような世界かも知れません。

私たちの体は物質からできており、生きているからエネルギーを出し入れし、物質が変化します。変化するから、もちろん時間が経過します。時間経過の任意の時点で、私たちの周りには当然様々な生物や無生物があり、それらの物質も私たちと同様に変化する、というよりもむしろ、その時点の宇宙に存在する全てがお互いに影響を及ぼし合って次々と場面が変わっていきます。

これは、物質循環を問題のひとつに捉える黒潮圏科学のコンセプトに適合し、さらには仏教の教義にある「縁起の理法」の世界観にもつながるように思えます。

気づかされるのは、その時点時点で存在する物質はもとを辿れば、150億年前の宇宙の始まりに行き着くことです。ビッグバン、インフレーションによって火の玉になった宇宙が膨張・拡散し、その物質の一部は46億年前にこの地球を作り、やがて生物を生みました。その間、物質は気の遠くなるくらい何度も使い回され、変化による生成と消滅を連綿と繰り返しながら宇宙が冷却し、今に至っています。姿・形は変わるけれども、元は同じ。しかし、いかなる現象も独立して起こるのではなく、それぞれの原因と結果が相互に依存し合って常に変化している状況。生物が進化するという変化もこの宇宙の原理の中で起こっているのでしょう。

それだけに、人間もまた常住不変ではあり得なく、人間の様々な考えや活動、人間それ自身もまた、周りのいかなる物質・環境と渾然一体となって変化し、連鎖していく。人間は宿命的にそのような宇宙の原理に巻き込まれています。

移ろい易きは人の心と風。捉えどころのない人間の意識とそこから生じる人間同士の関係と活動。そして刻一刻と変化する風と気象、時には大災害をもたらす。諸岡先生と千葉先生は、対象は異なってはいても根本は共通し、どちらも原因と結果が相互に依存し合って常に変化している宇宙の原理を研究して来ら

れました。原理の基本は保存され、蓄積されます。たとえ、この宇宙がさらに拡散して物質密度が希薄となり、ついに絶対零度にまで温度が下がって一つの世界が終焉しようとも、基本原理が蓄積されておれば、次の新たな世界を作り出す貴重な資料が残されていることになります。

黒潮圏海洋科学研究科の創設以来、新しい学問のありかた・コンセプトについて熱い思いで語り、その実現に向けて心血を注いで来られた6年間、私たち黒潮圏科学という同じ釜の飯を食べてきた教員、職員、学生を力強く、また、温かく励まし、導いていただきました諸岡先生ならびに千葉先生、本当にありがとうございました。

ここに黒潮圏総合科学専攻を代表し、お二人の先生に対して心から深く敬意と感謝の意を表します。

平成22年3月17日 黒潮圏総合科学専攻長 奥田一雄